

アイヌ民族の昔話制作へ

町制施行70周年記念事業

ウポポイ（民族共生象徴空間）やアイヌ民族の歴史・文化を町内外に広く発信しようーと、白老ふるさと昔話制作事業実行委員会（高山長基実行委員長）が子ども向けのアイヌの昔話制作に取り組んでいます。9月ごろに完成し、秋の町制施行70周年記念式典で披露される見通しです。学校にはDVD、保育園などには紙芝居が贈呈され、BSテレビの放送も予定しています。

町制施行70周年の記念事業の一環として、町と町民有志が実行委員会を立ち上げました。「ふんべ山」（4分）、「きつねのチャランケ」（5分）、「金の声 銀の声」（7分）のアニメーションの3作品の制作が予定されています。株式会社animal spirit、一般社団法人むかしばなし協会に制作を委託、白老アイヌ協会の岡田路明事務局長が監修します。

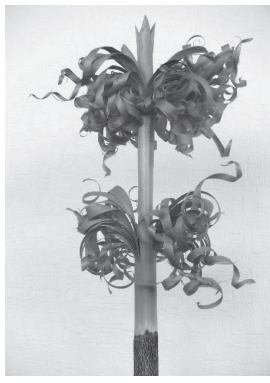
4月25日にしらおい創造空間・蔵で行われた第1回実行委員会では、高山実行委員長が「皆さんで力を合わせて成功させたい」とあいさつしました。テレビ「まんが日本昔ばなし」のチーフディレクターを務めた小林三男氏も出席しました。民間有志でつくる実行委員会は広報、企画、設営の3部会で構成、今後作業を進めていきます。



知っておこう アイヌ文化

イナウ

イランカラプテ。アイヌ民族は人間の暮らしに欠かせない身の回りのものをカムイと捉え、カムイは人間に多くの恩恵をもたらす一方で（なには人間に災いをもたらす悪いカムイもいる）、人間は感謝の祈りと返礼の品々をカムイに捧げます。そして、この互恵的な関係こそ人間の平和な暮らしには必須であり、カムイとの良好な関係を構築し、強化するのに欠かせない返礼品の1つがイナウ（木幣）です。イナウは樹木を刃物で幾重にも薄く削り、房状に加工したもので、人間の言葉の足りない部分を補い、感謝の祈りと返礼の品々をカムイへと運ぶ役割があり、カムイのもとに届いたイナウは最高の宝物となって、受け取ったカムイの地位も向上すると言います。イナウの材料はヤナギやミズキ、キハダなどを用い、なかでもキハダは最高位に位置づけられ、カムイのもとに届くと金に変わるとされており、濫用するとカムイたちが喧嘩して捧げた人にたたりが来ると言い伝えられるほど、格式の高いものとされています。ですから、カムイによって異なる地位に見合った材料の樹種や形状、大きさを勘案しながら作られ、儀式の際にはヌササン（祭壇）に様々な形のイナウが並びます。このように儀式で目にする数々の美しいイナウには人間からカムイへの尊敬の気持ちが表現されているのです。



チエホロカケイナウ
(逆さに削った木幣)

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301